

## 日本カナダ学会『カナダ研究年報』執筆要項

### 1. 執筆要項の基本

- (1) 原稿書式（手稿は原則として受け付けない）
  - a-1. 邦文ワープロの場合  
A4版横書き、1枚横40字 x 40行（1600字）とする。
  - a-2. 英文・仏文の場合  
A4ダブルスペース1枚400語（16語 x 25行）程度とする。  
カンマやピリオドは引用符の内側に置く。（ex. ...history,）
  - b. 後注（「注」は一括して本文末尾にまとめる。）
  - c. 所定の表紙を添えて提出すること。
- (2) 原稿枚数の制限（図表、注、文献リストを含む）

<原稿の種類>	<邦文>	<英文・仏文>
a. 論文	12.5枚	25枚
b. 研究ノート	5枚	10枚
c. 書評	4500～5000字	
- (3) 付記事項
  - a. 論文が邦文の場合、英文または仏文800語以内の要約をつけ、採択後、末尾に執筆者の所属機関名を記す。ただし、必ずネイティブ・チェックを受けたものを提出のこと。
  - b. 書評については、書名、編・著者名、発行所名、刊行年（西暦）、総ページ数を記す。
  - c. 「論文」「研究ノート」「書評」とも、採択後、「注」（なければ本文）の末尾に執筆者の氏名のふりがなと所属機関名を記す。
  - d. 原則として、図表はページ半分程度のもの1つにつき400字分とする。
- (4) 提出に際して
  - a. 提出稿は未発表の完成稿であること。
  - b. 論文・研究ノートには表紙をつけること（ホームページからダウンロード可能）。表紙には、次の事柄を記入すること。
    - ① 題名（邦語の場合、英語もしくはフランス語訳も併記）
    - ② 原稿区分（論文か研究ノートか）
    - ③ 執筆者名（日本語及び英語もしくはフランス語表記を併記）

- ④ 自宅住所、電話、Eメール
- ⑤ 所属（日本語及び英語もしくはフランス語表記を併記）、役職名

- c. 投稿原稿には、執筆者名や所属機関を記さないのみならず、注等においても執筆者が特定できるような、「拙稿」などの表現を用いないこと。
- d. 原稿は正稿1部、副稿2部の合計3部を提出すること。あわせて、編集委員長宛に表紙と投稿原稿のファイルをメール添付で提出すること。なお、提出原稿は返却しない。

(5) 採択

提出原稿の採否については、締め切り後2ヶ月程度をメドに、編集委員会から委嘱された各専門分野のレフェリーによる審査を経て、編集委員会より通知する。採択条件としてレフェリーより修正意見がつけられた論文については、原稿を修正のうえ期日までに再提出し、修正が十分と判断されれば掲載可となる。

(6) 校正

執筆者校正は、初校1回を原則とする。校正段階での内容の大幅な変更は認められないが、編集委員会から記述の統一等を求めることがある。

(7) 締め切り

原稿公募締め切り 1月31日<必着>

原稿は郵送に限る（上記の通り、あわせて電子メール添付でも提出すること）。

## 2. 執筆にあたっての留意点

(1) 用語・用字

- a. 新字体（引用文も新字体）
- b. 新かなづかい（引用文については、原文のまま）
- c. 年号は原則として西暦を使用
- d. 外国人名は、初出の際に姓名の両方を省略せずに記載した上で、括弧（ ）を付し、原語を入れる。（ex. ジャスティン・トルドー（Justin Trudeau））
- e. 固有名詞、日本語の定着していない専門用語などは、必要に応じて括弧内に原語を入れる。
- f. 邦文や邦語文献に関する部分には全角ハイフンを用いる（ex. 18–20頁）。英文や英語文献に関する部分には半角ハイフンを用いる（ex. pp. 3–4）。
- g. 数字は、熟語（一つ、二つ、三つなどを含む）に漢数字を用いる以外は、原則としてアラビア数字を用いる。

(2) 構成

論文の場合は、いくつかの節に分け（アラビア数字で表示し、数字の後ろにピリオドを打つ）、なるべく見出しをつける。節をさらに区切っても差し支えない（1

ー 1 など、全角ハイフンを用いること)。

(3) 謝辞

謝辞は原則として掲載しない。

(4) 注の表記

a. 注番号は、本文の該当箇所の該当部分に(1)(2)(3)...のように、丸括弧付きで通し番号で入れる。(邦文では、注番号は句読点前に置く。欧文では、カンマやピリオドの後に置く。)

b. 引用文献の表記

① 邦語文献の場合

頁数には「頁」を用いる。ハイフンを使用する場合は全角ハイフンを用いる。

(a) 単行本

著者名『書名』発行所、発行年、引用頁。(発行所、発行年、引用頁の間は読点を用いる。括弧は使用しない。)

【例】

大原祐子『カナダ現代史』山川出版社、1981年、58頁。

J.M.S. ケアレス著、清水博・大原祐子訳『カナダの歴史』山川出版社、1978年、115－20頁。

(b) 書籍論文

著者名「論文名」編著『文献名』発行所、発行年、引用頁。

【例】

木村和男「カナダ経済の発展(1)1842年—1914年」馬場伸也・大原祐子編『概説カナダ史』有斐閣、1984年、199頁。

(c) 雑誌論文・雑誌記事

著者名「論文または記事名」『掲載誌名』号、発行年月、引用頁。

【例】

飯沢英昭「加米自由貿易協定後のカナダ経済」『カナダ研究年報』第22号、2002年、3頁。

(c) 新聞記事

『新聞名』年・月・日。

【例】

『日本経済新聞』2005年10月30日。

② 欧語文献の場合

ページは数字のみとし、p. pp.などは付けない。

フランス語文献については、英語文献と異なる点があるため、以下の例を参照のこと。

(a) 第一次史料

Name of repository, Title of unit, Reference designation, Volume number, Page number [数字のみ], Document description.

【例】

Library and Archives Canada (以下LAC), William Lyon Mackenzie King Papers, MG26, J 1, Vol. 20, 18601-3, W.L.M. King to Sydney Fisher, 15 August 1913.

Bibliothèque et Archives Canada (以下BAC), Fonds William Lyon Mackenzie King, MG26 J 1, vol. 20, 18601-18603, W.L.M. King à Sydney Fisher, 15 août 1913.

Library and Archives Canada (以下LAC), Records of the Department of Agriculture, RG 17, Vol. 1631, file 1097A, John Lowe to Hector Fabre, 14 September 1885.

Bibliothèque et Archives Canada (以下BAC), Archives du ministère de l'Agriculture, RG17, vol. 1631, dossier 1097A, John Lowe à Hector Fabre, 14 septembre 1885.

(b) 単行本

著者名または編者[名前一姓の順], 書名[イタリックまたは下線](発行地: 発行所, 発行年), 引用頁[数字のみ].

書名と出版情報の丸括弧の間にカンマは打たない。

【例】

Ramsay Cook, *Canada, Quebec, and the Uses of Nationalism* (Toronto: McClelland and Stewart, 1986), 80-81.

Paul-André Linteau, *Histoire de Montréal depuis la Confédération* (Montréal, Boréal, 1992), 30-31.

(c) 書籍論文

著者名[名前一姓], “論文名,” in / dans 所収文献著者名ないし編者名, 所収文献名[イタリックまたは《 》](発行地: 発行所, 発行年), 引用頁[数字のみ]. 仏語文献の場合は、発行地の後ろにコロンではなくカンマを用いる。(発行地, 発行所, 発行年)

【例】

Michael Walzer, “Pluralism: A Political Perspective,” in Will Kymlicka, ed., *The Right of Minority Cultures* (New York: Oxford University Press, 1995), 140.

Denise Lemieux et Lucie Mercier, «La formation du couple et ses rituels», dans Gilles Pronovost, dir., *Comprendre la famille* (Québec, Presses de l'Université de Québec, 1992), 53-69.

(d) 雑誌論文・雑誌記事

著者名[名前一姓], “論文名または記事名,” (仏語の場合は《 》, を使用) 掲載雑誌名[イタリックまたは下線], 巻[アラビア数字] (号[アラビア数字]) (発行年月), 引用頁[数字のみ].

【例】

David R. Cameron, “Lord Durham Then and Now,” *Journal of Canadian Studies*, 25(1) (Spring 1990), 17.

Marie-Michèle Sauvageau, 《Du ‘Comment’ participer à ‘Pourquoi’ participer? Analyse de la notion de participation dans le multiculturalisme canadien et l’interculturalisme québécois》, *Canadian Ethnic Studies*, 43(1) (2011), 197-220.

(d) 学位論文

著者名[名前一姓], “論文名”, 修士ないし博士論文を明記, 提出大学名, 提出年, 引用頁[数字のみ].

【例】

《修士論文》

Michelle Muir, “Producing Educated Women: Eveline LeBlanc and the University of Ottawa,” MA thesis, University of Ottawa, 2003, 29.

Alexandre Bujold, 《Institutions et élites locales: la municipalité d’Hochelaga de 1860 à 1883》, Mémoire de maîtrise, Université de Montréal, 2004, 81.

《博士論文》

Andrew Thompson, “In Defence of Principles: NGOs and the Supreme Court of Canada,” PhD thesis, University of Waterloo, 2005, 36.

Isabelle Dornic, 《La Bonne Parole: constitution d’une identité féminine au Québec, 1913-1958》, Thèse de doctorat, Université Laval, 2004, 56.

(e) 判例

判例などについては、イタリックは使用しない。

事件名 (v.を使用), [発行年] 巻 判例集 (シリーズ) 頁[数字のみ].

【例】

Multani v. Commission scolaire Marguerite-Bourgeoys, [2006] 1 Supreme Court Report (SCR) 256.

(f) 新聞記事

新聞名[イタリックまたは下線], 日 月 年.

【例】

*The Globe and Mail*, 5 April 1945.

*Le Devoir*, 28 novembre 2004.

(g) オンライン文献

上記の(a)~(f)の表記に従った上で, 最後に閲覧した年月日を日 月 年

で記載した後、< >内にURLを明記する(その後ろにピリオドを打つ)。

**【例】**

Statistics Canada, “Canadian Statistics in 1967: One hundred years of Canadian Statistics!” 20 August 2018  
<[https://www65.statcan.gc.ca/acyb07/acyb07\\_0012-eng.htm](https://www65.statcan.gc.ca/acyb07/acyb07_0012-eng.htm)>.

③ 反復引用の表記

(a) 邦語文献

直前に引用されている文献の場合 同上。 または同上、引用頁。  
それ以外の二度目以降の引用 著者名、前掲書、引用頁。

\*ただし、同一著者の文献が二つ以上で、直前の引用ではない反復引用の場合は、書名ないし簡略化した文献名を明記すること。

**【例】**

同上、50頁。  
大原祐子、前掲書、150頁。  
木村和男、『カナダ史』、325頁。  
木村和男、『カヌーとビーヴァーの帝国』、78頁。

(b) 欧語文献

(b)-1 直前の注に引用されている文献の同一箇所の場合

**Ibid.**

直前の注に引用されている文献の別のページ、または新聞の別の日時の場合

**Ibid.**, 引用頁. または **Ibid.**, 日 月 年.

\*第一次史料で、直前に引用したものと共通する箇所については、**Ibid.**で表記し、異なる箇所を明記すること。

\***Ibid.**はイタリック体にしないこと。

**【例】**

**Ibid.**  
**Ibid.**, 210. または **Ibid.**, 25 March 1992.  
**Ibid.**, Lowe to Henry Jones, 13 March 1888.

(b)-2 それ以外の二度目以降の引用

著者名または編著者名(姓のみ)、書名または簡略化した文献名(イタリックまたは下線)、引用頁。

\*同一著者による複数文献がある場合には、各々の文献の初出の際にはフルネームで表記し、各文献の二度目以降は姓のみとする。

\*第一次史料については、Name of repositoryは略記し、title of unitや、史料の詳細において、二度目以降の人名は姓のみとするなど、適宜省略すること。

**【例】**

Ramsay Cook, *The Regenerators: Social Criticism in Late Victorian English*

*Canada* (Toronto: University of Toronto Press, 1985), 128.  
Cook, *Canada*, 80-81.  
Cook, *The Regenerators*, 37.  
LAC, W.L.M. King Papers, Vol. 20, 18601-3, King to Fisher, 15 August 1913.  
LAC, RG17, Vol. 1631, file 1097A, Lowe to Fabre, 19 October 1888.

### 3. その他

本要項は、日本カナダ学会が学際的学会であることを踏まえて年報編集委員会が作成し、理事会で承認されたものである。

日本カナダ学会年報編集委員会